

室蘭地域環境産業集積への支援

■ 現状

本市は、100年続く「ものづくり」の歴史により培われた技術力、人材、研究開発機能、物流基盤等を有し、それらを活用して、北海道PCB処理事業等の様々な環境産業・リサイクル産業の展開や定着など、北日本における環境産業都市の構築を進めています。

平成26年度に「室蘭グリーンエネルギータウン構想」を策定し、再生可能エネルギー事業の促進のほか、地域における水素エネルギーの活用を目指し、移動式水素ステーション、FCV、エネファーム等の導入など水素社会の実現に向けたモデル事業などに取り組んでおり、令和元年度には、本市産業振興における長期ビジョンの3本の柱の1つに水素エネルギーを位置づけるとともに、2050年までの水素ロードマップを策定し、これまで以上に推進していくため、取組みを進めているところです。

また、1都18県から集まるPCB廃棄物の処理事業は、国、道、事業者との連携により、安全対策と処理量の把握を進め、本市も協力しながら期限内の適正処理に向けて取り組んでいます。

■ 課題

水素の大量製造・大量消費を実現する社会に向けては、長期的な取組みが必要であるが、水素エネルギーに関する事業は、まだまだコストが高く、市単独で実施・継続していくことは非常に難しい状況にあり、国、道、事業者との連携、支援が必要です。

また、PCB廃棄物処理事業については、地域から処理期限終了後を想定した新たな産業振興策が求められています。

これら本市の現状を踏まえ、国際的な喫緊の課題であるCO2削減に向けて、環境産業の基盤をもつマチとしての責務を果たし、貢献していくため、また、PCB廃棄物処理で培われた技術と人材を活用した新たな環境産業の確保のため、更なる事業展開が必要となっています。

さらに、北海道における水素社会実現に向けた先導的役割を担うため、本市で移動式水素ステーションを導入しておりますが、北海道内では札幌市と鹿追町との3箇所だけであり、FCV利用環境の向上及び普及促進を図っていくことが求められています。



茶津第一風力発電所



蘭東消化ガス発電所



移動式水素ステーションとFCV

■ 要望内容

- 脱炭素社会及び水素社会構築へ向け、水素エネルギーに関する実証事業や事業化に向けた取組みなど本地域への各種支援施策の展開
- 令和3年5月設立の官民連携組織「室蘭脱炭素社会創造協議会」による再生可能エネルギー等の地産地消の促進に向けた取組みへの支援

■ 事業効果

- 本市が持つ「ものづくりのマチ」の人材、技術及び港湾などのポテンシャルを生かした更なる環境産業の集積及び水素社会構築へ貢献できる。